

○考えるとは「3つの領域」を意識すること

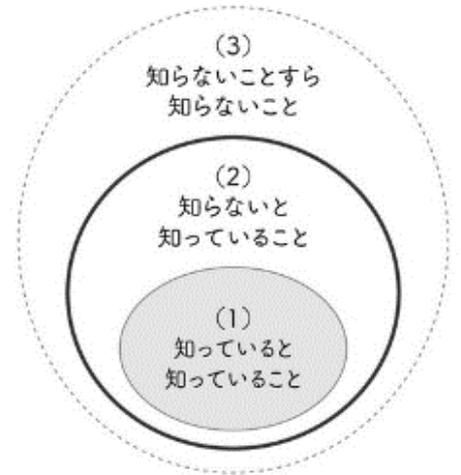
今週の火曜日に6年生の職業講話で保育園の園長様からお話をいただきました。保育士の仕事の魅力を語ると同時に、園児たちが毎日の生活の中での体験を通して、考え、成長している姿が伝えられていました。

子ども達の姿から、大人が学ぶことはたくさんあります。そもそも「考える」とはどういうことなのでしょう。

ビジネスコンサルタント細谷功さんのコラムから・・・

右の図は、私たちの身の回りの事実や出来事、あるいは、ものの見方といったものを「それを知っているかどうか」で分けたものです。

単純に考えると「知っていること」と「知らないこと」の2択になりそうな気がしますが、それを少しだけ違う観点から分けている結果、3つになっているところがポイントです。それは「知らないこと」をさらに2つに分けて、「知らないと知っていること」と「知らないことすら知らないこと」に分類したことです。



(1) 「知っていること」

まず中心にあるのは、いわゆる知識、つまり「知っていること」、さらに言えば「知っていること」です。

言語で言えば、個々の単語の意味であり、学生時代に一生懸命に暗記した歴史上の出来事や世界地理、元素記号等がこれに相当します。

あるいは、そのような単なる断片的な知識のみならず、車はなぜ動くのかとか、どうすれば美味しい料理ができるかといった、いわゆるノウハウもここに属すると言っていいでしょう。この領域については、最もイメージしやすいのではないかと思います。

(2) 「知らないこと」

続く二番目が「知らないこと」のうちの1つ目、「知らないこと」です。通常、私たちが「知らない」というときには、このことを言うことが大部分であるかと思えます。

たとえば、自分は専門以外のことはよく知らないとか、海外のことはよくわからないといった具合です。このような知らないことを調べるために、私たちはインターネットで検索をしたり、よく知っている人に聞いたりといった行動をとります。したがって、このように「知識を得る」というのは、「二番目の領域」を「一番目の領域」に変えていくことです。

(3) 「知らないことすら知らないこと」

ところが、実は「考える」ことを意識するうえで重要なのは、この領域のさらに外側、三番目の「知らないことすら知らないこと」、未知の未知という領域なのです。

自分は知らないことすら知らないことや、気づいていないことすら気づいていない、そのような膨大な領域があるということ意識しておくことなのです。考えるというのは「三番目の領域」を「二番目の領域」に変えていくことをも意味します。

人は、ついついここでいう三番目の領域を忘れがちです。するとどうなるかと言えば、自分が全く想定していないものや理解できないことを経験したときに、それを否定にかかります。いわゆる「頭が固い人」です。知識と思考が相矛盾する逆方向のものであることがわかります。

最近のAIの動きをみていると、従来は一番目の領域を着実にこなすのがミッションだった機械が、かなり二番目の領域にまで入ってきていることを思い知らされます。

したがって、人間がやるべきところは(3)を(2)に変える、つまり問題発見の分野ということになります。人間ならではの必要な力がまさに(知識量ではなく)自ら考える力ということになるのです。



ホームページ更新しました	来週の予定				
	月	日	曜	時間	行事等
○新1年体験入学	12	19	月	14:55	朝礼 一斉下校
○ふれあいタイムカルタ説明会		20	火	15:45	P T A読み聞かせ3年 一斉下校
○中学校説明会		21	水	14:55	一斉下校
○6年 職業講話		22	木	4 限 14:00	4時間授業・給食終了 通学団会 一斉下校
○東山動物園へ出かけました。		23	金	10:45	2学期終業式 付添一斉下校
○朝礼・表彰・講話「継続は力なり」					

子どもたちの活動の様子は、本校ホームページをご覧ください。

十四山東部小学校

で

検索

または

